

平成26年度第1回調査・研究委員会議事録

◇日時:平成26年6月7日(土) 9:00～11:30

◇会場:いわて県民情報交流センター 605会議室

○出席者(7名)

寺嶋委員長・小川委員・小高委員・呉屋委員・富田委員 轟原・山田(事務局)

1 開会あいさつ(寺嶋委員長)

2 報告事項

(1) 平成25年度の調査・研究委員会事業報告

事務局より配布資料により報告した。

(2) 平成25年度第2回役員会結果報告

事務局より議事録をもとに報告した。組織業務改善計画策定の今後の日程及び来期の役員体制について委員から補足説明があった。

(3) 後援承認処理

事務局より4月以降の処理案件について報告した。

3 協議事項

(1) 平成26年度予算案及び事業計画案

事務局より説明し、了承された。

- ・ 「手引き」を全国自治体に案内するための印刷費と郵送費を計上した。メールで案内を出してもスルーされる可能性があることと、自治体内の適切な部署のメールアドレスを調べて打ち込むのはかなり難しいと判断したため。

(2) 「公文書館機能整備のための手引き」(仮称)作成計画

- ・ 小高委員、富田委員から配布資料により計画案の説明があった。
- ・ 事例集の質問項目及び「選別文書はどのように活用されているのか？」を追加。公文書が特に組織の事務事業などでどういった利用のされ方をしているのか、公文書館から事例を集めて「手引き」に掲載すれば、館設立にあたっての主管課や原課への説明材料にもなるのではないか。
- ・ 「選別文書はどのように活用されているのか？」では、組織の事務事業の中での利用に重点を置く。単に個人的な歴史研究のためというのは控え目にしたいが、少し広げなければ材料集めが難しいかもしれない。いくつかの館に問い合わせ、あらかじめ感触を得て進める。
- ・ 事例集では、なるべく市町村の館を多く入れる。都道府県では、複合館や共同館等いろいろなパターンを出すという選び方をする。特徴が出ているところに焦点をあてて、全部で20館程度とする。

- 手引きとして読みやすい体裁を考えなければならないし、ダウンロードに負荷がかからない程度に分割することになるだろう。
- 事例に出した館のどこが特徴的なかわかるように、見出しをつけるなどの編集的な配慮をする。見出しはこちらで決めてしまい、なぜ事例として選んだかを依頼時に話し、そこに力点を置いた自由記述をしてもらう。
- 各項目ごとに質問内容を検討した。
- 今後の作業日程としては、早々に依頼する館を決めて項目を整え、7月中に依頼文を提出、9月初旬を締め切りとし、その後やりとりを経て10月中に出揃う形とする。第2回委員会ではレイアウトを固める。
- 質問項目作成や各章の執筆、編集等について、各委員及び事務局の分担を決めた。

(3)その他

特になし

以上